

第9章 提出書類等

1 提出書類一覧

設計業務等委託において、業務着手時および完了時に提出しなければならない関係書類一覧は以下のとおりとする。

監督員提出分

書類	部数	提出時期	備考
監督員選定(変更)通知書	1	業務着工後、すみやかに提出	
指示票	1	受託者への指示項目	
業務内容変更通知書	1	業務内容変更時	
業務中止通知書	1	業務中止時	
業務中止解除通知書	1	業務中止の解除時	
検査結果通知書	1	完了届提出後 10 日以内に提出	
修補指示書	1	完了検査後、不合格の場合	
業務履行請求書	1		

受注者提出分

書類	部数	提出時期	備考
技術者選任(変更)通知書	1	契約後、7日以内に提出	
技術者資格等届出書	1	契約後、7日以内に提出	
技術者経歴書	1	契約後、7日以内に提出	
業務計画書	1	契約後、14日以内に提出	
業務工程表	3	契約後、7日以内に提出	
履行期間延長申請書	1	履行期間の延期時	
完了(一部完了・出来形)届	1	業務完了後	
請求書兼領収書	1	業務完了後	
成果物の提出	2	業務完了後	
引渡書	1	業務完了後	
修補完了届	1		
業務履行承諾書	1		

2 設計図 作成要領

(1) 適用

- 1) 設計図の作成にあたっては、「水道施設設計業務委託標準仕様書」を参考に行う。
- 2) 作図一般、記号、線の一般的用法、その他この要領に定めないものは、JIS A 0101（土木製図通則）、JIS Z 8310～8318（製図総則ほか）、土木学会制定「土木製図基準」、その他関係法令によるものとする。

(2) 単位表示

表示はSI単位とするが、SI単位と従来単位を併記する必要がある場合は、()内に従来単位を表示する。「第1章 総則 1 適用及び留意事項 (7)単位」を参照。

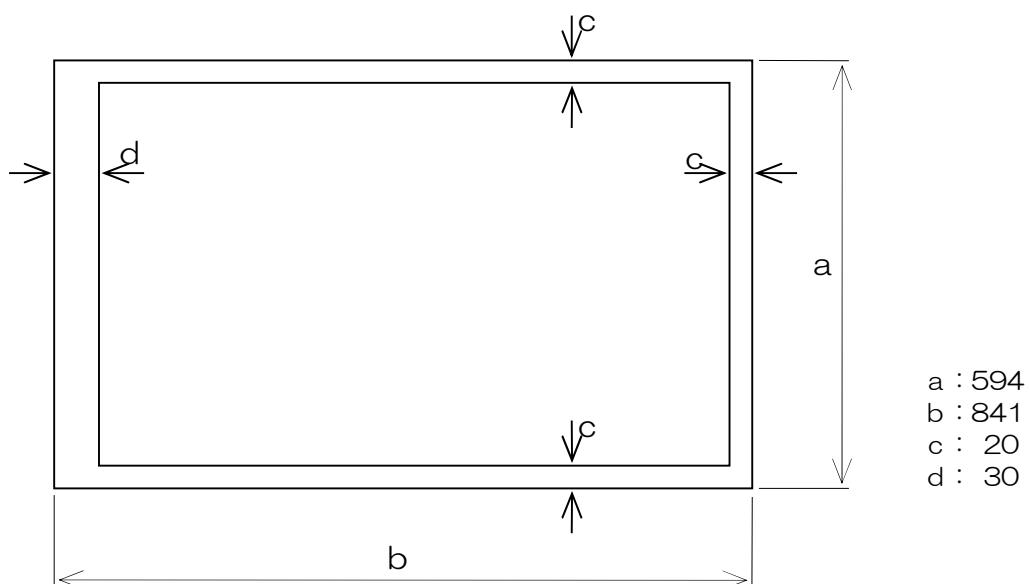
(3) 図面の大きさ、図面配分等

- 1) 図面の大きさは、図面紙の仕上がり寸法で JIS P 0138（紙加工仕上寸法）のうち、A1 とし、位置図については A4 縦とする。
- 2) 路線平面図、縦断面図等において、規程の大きさで図面を作成できない場合は、A1 判に分割して作成し、その接続部分（マッチライン）を表示する。
- 3) 同一工事で 2 箇所以上の施工場所を含むものは、合理的な配置を考え、必要最小限度の枚数で図面を作成すること。
- 4) 詳細図、横断図、構造図、標準掘削埋戻し図等について、表示する内容や寸法によっては同一の図面に表示してよいが、極力重複を避けるように考慮しなければならない。
- 5) 各図面の指示した寸法単位によりがたい場合は、その度単位記号を表示しなければならない。
- 6) 設計するために用いる地形図等の図面は、全て最新のものを使用しなければならない。

(4) 図面枠及び表題

1) 図面枠

図面枠は次図のとおりとし、長辺方向を左右に置いた位置を正位とする。



2) 表題

表題欄には下記の枠を使用し、図面の右端下に入れるものとする。

事 業 名			
件 名		製 図 年月日	
図 名		縮 尺	
設 計		図 番	
宗 像 地 区 事 務 組 合			

(5) 作成図面について

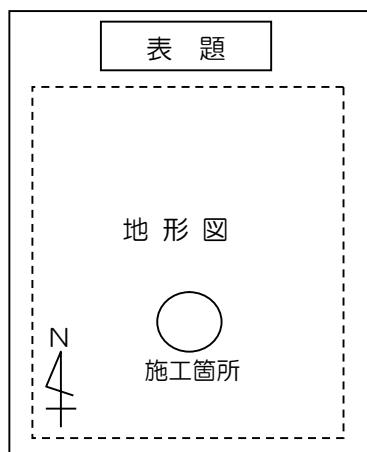
設計図書として作成が必要な図面は下記表のとおりとする。

設計図書 (起工時)	位置図、平面図・縦断図、詳細図、横断図、配管略図、掘削復旧工標準図 泥吐管標準図、仕切弁室、消火栓室、空気弁室標準図、オフセット図 その他の各種構造図、配筋図等
参考図	仮設配管図、保安対策図、舗装展開図等

(6) 各種図面の解説

1) 位置図

1. 用紙サイズ：A4 サイズ縦
2. 縮尺：1/2500
3. 図面レイアウトは以下のとおり

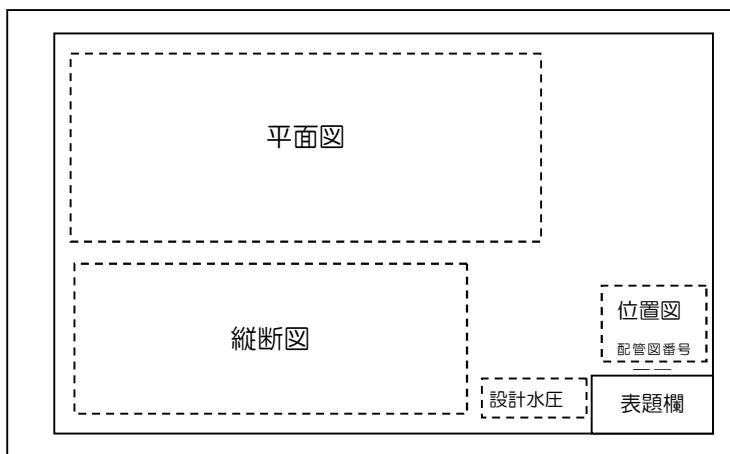


4. 記載要領

- ① 宗像市・福津市が作成した「道路台帳」および、関係測量成果による地形図を利用して位置図を作成する。配管ルートを明示した上、施工範囲を円で囲む。
- ② 原則、図面の上方を北とする。また、上部中央に以下の内容を記載する。
工事名、図面名、縮尺、工事概要（例： $\phi 50$ L=○○m）
- ③ 地形図には町名、番地、目標となる構造物等の名称を表示する。ただし個人情報保護のため、個人氏名は表示しない。

2) 平面図・縦断図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/500（平面図） 縦1/100 横1/500（縦断図） 1/2500（位置図）
3. 図面レイアウトは以下のとおり



4. 記載要領

4-1 位置図（小）

図面の表題欄上部に約15cm四方の大きさの位置図を配置する。縮尺は1/2500とする。また、配管図番号を表示する。

4-2 平面図

- ① 原則、北を上に向けて作成する。ただし延長が長い路線など、困難な場合はこの限りではない。（方位記号は平面図の左上に表示）
- ② 工事起点は左側にとることを基本とし、呼び径ごとに設計延長、管延長を表示する。
- ③ 工事起終点・NO点・IP点を旗上げする。IP点には曲管角度を明記し、CBについては水平垂直方向の振れ幅と管延長も示す。
- ④ 平面図が二枚以上にわたる場合は、前後のつながりが明確となるように、同じ向きに作成するとともにマッチラインを表示する。
- ⑤ 既設埋設物の地上物件（鉄蓋等）を明記し、地下埋設部分（防火水槽、特殊人孔等）の形状は破線表示する。また、給水管引込位置も明記する。

- ⑥ 配管が他の埋設管と交差する場合には、どちらかの線を切って表示するか、飛び越した線を表示して、交差を表現する。
- ⑦ 道路は、国道・県道・市道等の区別をおこなうとともに、国道および県道についてはその名称を表示する。河川については、その名称・流水方向を表示する。
- ⑧ 起点部、終点部、分岐部、その他詳細図が必要な箇所を、円で囲みアルファベット（大文字）を用いて詳細図の箇所番号を示す。
- ⑨ 試験掘削を行う場合はその箇所を明記し、別途図面（地下埋設物の種別、形状、呼び径、土被りを表示）を作成する。

4-3 縦断図

- ① 起終点・分岐点の位置や、新設管の管種・口径・延長を明記する。また仕切弁・空気弁・消火栓・排泥弁箇所の旗上げを行う。
- ② 特に指定がない限り寸法はメートル単位とし、少数第二位（三位四捨五入）止めとする。
- ③ 縦断図枠には、管割図・道路種別・土被・管中心高・地盤高・追加距離・単距離、測点を表示する。
- ④ 既存埋設管、横断構造物等を明記する。
- ⑤ 新設及び改良道路においては、現況と計画地盤線を区別して両方表示する。
(この場合、土被り表示は計画地盤線からの深さとし、掘削基面が現況地盤の場合にのみ現況地盤からの深さも併記する)

4-4 設計水圧

配水池、静水圧、設計水圧について下記の枠を使用し、表題欄の左に表示する。

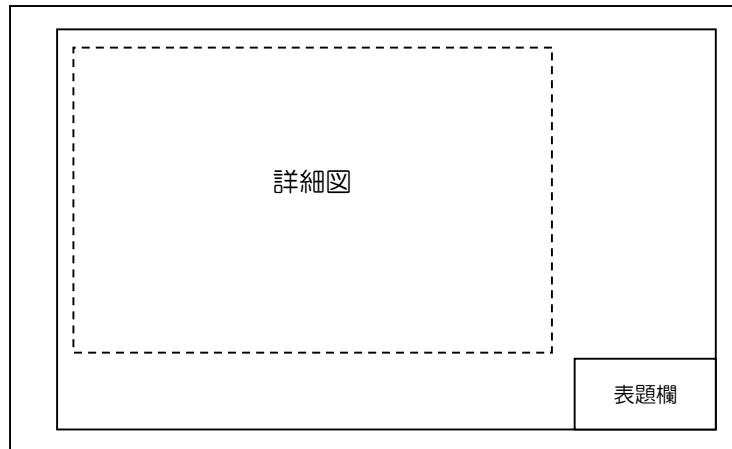
配 水 池	$\bigcirc\bigcirc\bigcirc$ 配水区 H.W.L = $\bigcirc\bigcirc.\bigcirc\bigcirc$ m
静 水 圧	$\bigcirc\bigcirc - \bigcirc\bigcirc = \bigcirc\bigcirc \doteq \bigcirc\bigcirc$ MPa ($\bigcirc\bigcirc$ kgf/cm ²)
設計水圧	$\bigcirc\bigcirc$ MPa $\times 1.5 = \bigcirc\bigcirc$ MPa ($\bigcirc\bigcirc$ kgf/cm ²)

なお、静水圧及び設計水圧の表示方法の例を以下に示す。

$$\begin{array}{llll}
 (\text{H.W.L}) & (\text{管中心高}) & (\text{静水頭}) & (\text{静水圧}) \\
 \text{静水圧} & 96.70 - 40.00 = 56.70 \doteq 0.56 \text{MPa} (5.67 \text{kgf/cm}^2) \\
 \text{設計水圧} & 0.56 \text{MPa} \times 1.5 = 0.84 \text{MPa} (8.57 \text{kgf/cm}^2)
 \end{array}$$

3) 詳細図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/100
3. 図面レイアウトは以下のとおり



4. 記載要領

- ① 原則として、起終点・既設管との接続部・分岐部・排泥管吐出部・既設の構造物との近接箇所等では詳細図を作成する。(必要に応じ、詳細断面図も作成)
- ② 図面方向は、平面図と合わせる。アルファベット(大文字)を用いて詳細図の箇所番号を示す。
- ③ 特に指定しない限り寸法はミリメートル単位とし、整数位(小数点一位四捨五入)止めとする。
- ④ 既設埋設管などは、現地調査等に基づき正確に表示する。呼び径300mm以上の埋設管は、肉付けもおこなうこと。
- ⑤ 受口は継手形式を表示する。(普通又は特殊押輪、ライナー等も含む)
- ⑥ 既設埋設管や構造物等との近接状況を旗上げし、新設の管種・口径・部材延長を明記する。
- ⑦ 付帯工事の撤去、復旧部分を表示する。(L型側溝、区画線等)
- ⑧ 詳細図が少ない場合には、他の図面に併記してもよい。

4) 横断図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/100
3. 図面レイアウト：詳細図と同様
4. 記載要領

- ① 40m毎に断面図を作成し、横断方向は工事起点から終点を見た向きとする。
- ② 特に指定しない限り寸法はメートル単位とし、少数第二位(三位四捨五入)止めとする。

- ③ 道路幅員、新設管の種別、呼び径、土被りを明記する。廃止管は、「本工事竣工後廃止」と注記を入れる。
- ④ 既設地下埋設物（上下水道・ガス・電気・電話・通信等）については現地調査及び台帳資料に基づき、種別・形状・呼び径・土被りを明記する。
- ⑤ 床掘断面を入れ、土被り高さを示す。試験掘削を行う箇所については、必ず横断図を作成する。
- ⑥ 横断図が少ない場合には、他の図面に併記してもよい。

5) 配管略図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：無し
直管が連続する区間については縮小し、異形管が連続する区間については拡大表示する。
3. 図面レイアウト：詳細図と同様
4. 記載要領

- ① 特に指定しない限り寸法はメートル単位とし、少數第二位（三位四捨五入）止めとする。
- ② 工事起点は左側にとることを基本とし、工事起終点・No点・IP点を旗上げする。
また、配管材料の数量を集計しやすいように、異形管・切管材料についても旗上げを行う。
- ③ 配管図枠には、呼び径・舗装種別・昼夜区分・土質区分・床掘土留区分を表示する。
- ④ 工事起終点・IP点・土留区分、弁栓類位置においては、追加距離を表示する。また拘束の必要区間について分かりやすく明記する。
- ⑤ 仕切弁の面間寸法を割って端数が出る場合は、起点側を切上げて表示する。
- ⑥ 材料記号は、鉄管図示記号を参照とする。
- ⑦ 弁栓類の使用について、0.98Mpa (10kgf/cm²) 以上のものは呼び圧力 (10k, 16k等) を表示すること。
- ⑧ 地形が複雑又は高低差が著しい場合については、監督員との協議のうえ、必要に応じて設計水圧の変化点を表示することが望ましい。

6) 掘削復旧工標準図等

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/20
3. 図面レイアウト：詳細図と同様
4. 記載要領

- ① 舗装種別及び口径別に、掘削幅・埋戻材料・路面復旧構造を明記する。会所掘が必要な場合は、その寸法形状について示すこと。
- ② 特に指定しない限り寸法はミリメートル単位とし、整数（小数点一位四捨五入）止めとする。

めとする。

- ③ 削復工標準図が少ない場合には、他の図面に併記してもよい。
- ④ その他、必要に応じ下記図面を、標準図として記載すること。
 - ・泥吐管設置標準図
 - ・仕切弁室標準図
 - ・消火栓室標準図
 - ・空気弁室標準図

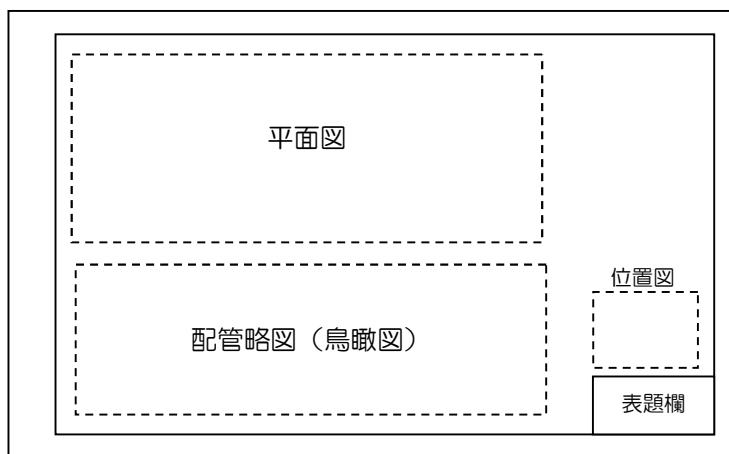
7) オフセット図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/100、500
3. 図面レイアウト：詳細図と同様
4. 記載要領

- ① オフセット図は、工事完了後に竣工図書として提出するものである。したがって設計段階では地形、新設管のみを表示し、オフセット図として提出する。
- ② 平面図・詳細図作成範囲について、オフセットを作成する。
- ③ オフセット図に表示するものは、地形、新設管、オフセット基準となるような永久構造物、下水道マンホールなどを基本とする。

8) 仮設配管図

1. 用紙サイズ：A1 サイズ横
2. 縮尺：1/500
3. 図面レイアウトは以下のとおり

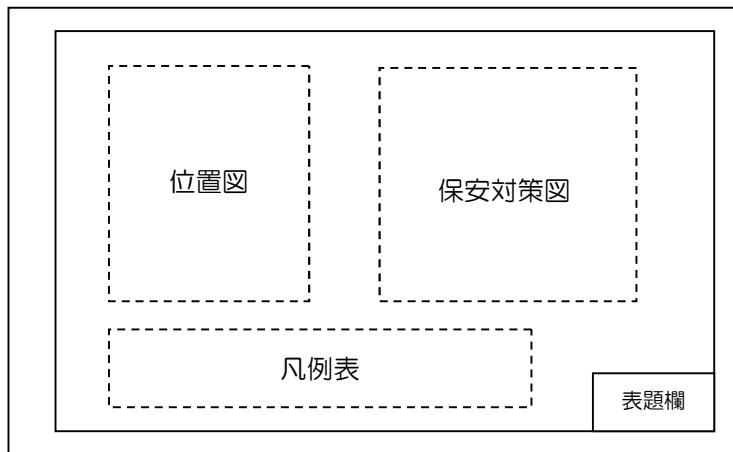


4. 記載要領

- ① 原則として「平面図」に準じた作成を行う。図面下段には、鳥瞰視した仮設管の配管略図を記載する。
- ② 平面図には、仮設本管を実線（赤）、仮設給水管を破線（赤）で明記する。
- ③ 配管略図には管種、口径、管延長、使用部材を旗上げする。
- ④ 必要に応じ、道路横断部分の詳細平面図、標準横断図等を添付する。

1 0) 保安対策図

1. 用紙サイズ：A 1 サイズ横
2. 縮尺：1/2500（位置図） 無し（保安対策図, 凡例表）
3. 図面レイアウトは以下を参考とする

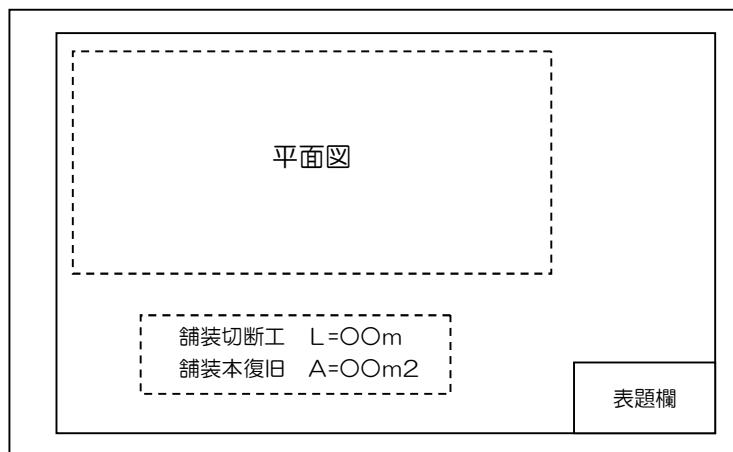


4. 記載内容及び記載方法

- ① 保安対策図は、道路占用及び使用許可の申請時に必要となる図面である。また設計段階において、施工ヤード確保や交通規制形態を検討する上でも必要である。
- ② 保安対策図には、工事のお知らせ看板、バリケード、交通誘導員、作業重機の配置を明記する。
- ③ 国道、県道、河川については、図面内にその路線名等を表示し、各管理者が占用申請図に求める情報を明記する。

1 1) 舗装展開図

1. 用紙サイズ：A 1 サイズ横
2. 縮尺： 1/500
3. 図面レイアウトは以下のとおり



4. 記載内容及び記載方法

- ① 原則として「平面図」に準じた作成を行うものとし、舗装範囲、舗装種別、舗装切断延長、区画線復旧長を明記する。
- ② 復旧面積は、舗装種別毎に旗上げする。また区画線の復旧延長についても、種別毎（線幅、線色、線種）に集計する。

(7) 字体の種類と大きさ

- 1) 字体の種類はゴシック文字とし、大きさ、使用例については下記のとおりとする。

大きさ	使用例
7.0mm	タイトル（事業名、発注者名 等）
4.0mm	小タイトル（件名、図名 等）
3.0mm	各種全般の文字
2.5mm	部材名（配管略図の旗上げ）
2.0mm	寸法（詳細図、横断図の場合）

(8) 平面図示記号

平面図に記載する図示記号は、下記の記号を使用する。

- 1) 呼び径記号

呼び径	記 号
φ 50	-----
φ 75	- - - - -
φ 100	—— — — —
φ 125	—— — — —
φ 150	—— — — —
φ 200	—— — — —
φ 250	—— — — — —
φ 300	—— — — — —
φ 350 以上	—————

2) 方位と配管図示記号

名 称	記 号
方 位	
管布設計画線	※ 大口径管・水管橋等は必要に応じて管径幅をつける
片 落 管	
No. 点 、 IP 点	
管の交差部	新設管が上
	新設管が下
仕 切 弁	
消 火 栓	
流 量 計	
空 気 弁	
空気弁付消火栓	

名 称	記 号
排 泥 弁 (消火栓タイプ)	
空気弁付排泥弁 (消火栓タイプ)	
排 泥 弁 (側溝排水タイプ) (水路・河川タイプ)	(仕切弁) 
排 泥 弁 (止水栓埋設タイプ)	(止水栓) 
給 水 管 (小口径ポリエチレン管)	
止 水 栓	

3) その他各機関の埋設物記号

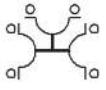
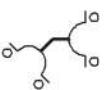
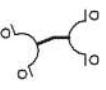
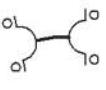
名 称	記 号
九州電力	九電 ○段●条 H=□□ _____ E _____
西部ガス	ガス管 ○○A H=□□ _____ G _____
NTT	NTT ○段●条 H=□□ _____ NTT _____
汚水管、合流管 (呼び径を表示)	汚水管 φ○○ H=□□ _____
雨水管 (呼び径を表示)	雨水管 φ○○ H=□□ _____
その他 (有線、光ケーブル等)	●●管 φ○○ H=□□ _____

(9) 縦断図・詳細図図示記号

1) 鋳鉄管図示記号

鋳鉄管の図示記号は、日本ダクトイル鉄管協会が定める記号を使用する。

2) 鋳鉄管以外の図示記号

	HIVP (RR) 直管
	HIVP (RR) 直管 (離脱防止金具取付)
	HIVP (TS) ソケット
	HIVP (TS) エルボ
	HIVP (TS) バルブソケット
	鋳鉄製メカ形丁字管
	鋳鉄製メカ形小曲管 45°
	鋳鉄製メカ形丁字管 22 1/2°
	鋳鉄製メカ形丁字管 11 1/4°
	鋳鉄製メカ形ドレッサー
	鋳鉄製メカ形ドレッサー(片落ち)

(10) 工事名称

1) 工事名称のつけ方

工事名称のつけ方は以下のとおりとする。

- ① 工事場所の主たる公称地区名称を記載する。1つの工事で複数箇所の工事を施工する場合は「●●地区他工事」とする。

例) ○○地区配水管布設工事

- ② 拡張工事の場合は「●●地区配水管布設工事」、一般改良工事の場合は「○○地区配水管布設替工事」とする。

- ③ 工事を区切って発注する場合は(その1)(その2)を末尾に記載する。

(11) 設計書の書式

1) 設計書鏡

設計書鏡には、事業名、工事名、工事場所、工事説明、工事番号、設計年月日、工期を記入する。

2) 事業名

事業名(設計書に出力する名称)は下記のとおりとする。

事業名	事業内容
上水道拡張事業	新規水道管の布設工事
上水道一般改良事業	水道管の布設替工事
大島簡易水道事業	大島地区における水道工事
本木簡易水道事業	本木地区の簡易水道における水道工事

※地島地区における水道工事の場合は、上水道各事業の後に(地島)と表示する。

3 数量計算書

次ページ以降に、支給材料の集計に対応した数量計算書様式（例）を添付したので、これに準じて補助工事、単費工事、消火栓（負担金）工事ごとに作成する。

数量算出項目

- ① 土工集計表、一次復旧工集計表、路面復旧工集計表
 - ・土積計算書
 - ・一次復旧工計算書
 - ・原形復旧工計算書
- ② 配管工事集計表、配管材料集計表
 - ・配管材料表
 - ・切管調整表
 - ・仕切弁室築造工使用材料表
 - ・消火栓・空気弁・排泥弁室築造工使用材料表
- ③ 給水装置積算表
- ④ 雑工、産業廃棄物投棄料、安全費等
- ⑤ 工事工期算出